



株式会社 UACJ

2023 年 3 月期 本決算説明会

2023 年 5 月 11 日

イベント概要

[企業名]	株式会社 UACJ		
[企業 ID]	5741		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2023 年 3 月期 本決算説明会		
[決算期]	2023 年度 通期		
[日程]	2023 年 5 月 11 日		
[ページ数]	41		
[時間]	15:30 – 16:32 (合計：62 分、登壇：33 分、質疑応答：29 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]			
[出席人数]			
[登壇者]	6 名		
	代表取締役 社長執行役員	石原 美幸 (以下、石原)	
	取締役 副社長執行役員	川島 輝夫 (以下、川島)	
	取締役 常務執行役員	田中 信二 (以下、田中)	

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



執行役員 経営戦略本部長

隈元 穰治（以下、隈元）

執行役員 財務本部長

飯田 晴央（以下、飯田）

財務本部 IR 部長

上田 薫（以下、上田）

[アナリスト名]*

SMBC 日興証券

山口 敦

UBS 証券

五老 晴信

モルガン・スタンレーMUFG 証券

白川 祐

野村証券

松本 裕司

大和証券

尾崎 慎一郎

*質疑応答の中で発言をしたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本

050-5212-7790

米国

1-800-674-8375

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス

support@scriptsasias.com



登壇

上田：ご参加の皆様、大変長らくお待たせいたしました。本日は大変お忙しい中、株式会社 UACJ、2022 年度決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。この説明会は、株式会社 UACJ のホームページに掲載されております説明資料を使って行います。お手元に資料をご用意されていない方がいらっしゃいましたら、お手数ですがホームページをご覧ください。

なお、この説明会では、将来予測を含む情報が提供されることがありますが、これらの情報は当社の現時点での予測に過ぎません。さまざまな要因により、実際に業績がこれら将来予測と大きく異なる場合がありますので、ご留意ください。

説明会開始にあたり、ご参加の皆様にお願いがございます。質疑応答のスムーズな進行のため、Zoom 上でのご自身の表示名を、御社名とお名前の組み合わせにご変更くださいますよう、ご協力をお願いいたします。

では、本日の当社出席者をご紹介します。代表取締役 社長執行役員 石原美幸です。

石原：石原でございます。今日はよろしくお願いたします。

上田：取締役 副社長執行役員 川島輝夫です。

川島：川島です。本日はよろしくお願をいたします。

上田：取締役 常務執行役員 田中信二です。

田中：田中でございます。よろしくお願いたします。

上田：執行役員 経営戦略本部長 隈元穰治です。

隈元：隈元でございます。どうぞよろしくお願いたします。

上田：執行役員 財務本部長 飯田晴央です。

飯田：飯田です。よろしくお願いたします。

上田：私は本日司会を務めます、財務本部 IR 部長 上田薫でございます。どうぞよろしくお願いたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



それでは、本日発表いたしました2022年度業績、また、2023年度通期業績見通しにつきまして、社長の石原よりご説明させていただきます。プレゼンテーション資料をご覧くださいながらご参加ください。石原社長よろしく申し上げます。

石原：それでは決算説明会資料に基づいてご説明申し上げます。

発表のポイント

**22年度は 前年比増収、棚卸資産影響前経常利益減益 161億円(前年比 △ 52億円)
23年度はエネルギーサーチャージの効果顕現や自動車関連需要回復で改善を見込む**

■ 2022年度 総括

1

- ✓ 2022年度は前年比減益、主に自動車生産の混乱影響を受けた
- ✓ 国内：自動車関連が市況影響を受けたが、エアコンフィン材等の一般材の販売が増加
- ✓ 海外：旺盛なグローバル缶材需要を捉え、TAA^{*1}/UATH^{*2}ともに増益
- ✓ 構造改革：構造改革効果210億円を創出、外部環境変化に迅速に対応できる体制を確立

■ 2023年度 通期業績見通し

2

- ✓ 国内自動車生産台数の下期からの回復により自動車関連需要の回復を見込む
- ✓ 北米の自動車生産混乱の解消により、UWH^{*3}の年間での黒字化を見込む
- ✓ エネルギーサーチャージが国内で年間を通して効果顕現
- ✓ 電力費用の追加負担分については引き続き検討いたします

*1 TAA : Tri-Arrows Aluminum Inc.
*2 UATH : UACJ (Thailand) Co., Ltd.
*3 UWH : UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.

1

まず、発表のポイントについて右下1ページ目から説明いたします。22年度は前年比で増収、実力の利益である棚卸資産影響前経常利益については減益という形になりました。23年度はエネルギーサーチャージの効果顕現や自動車関連需要回復でその改善を見込んでおります。

2022年度は前年比で減益となりましたが、主に板、押出等々、全ての事業において自動車生産の影響を大きく受けております。国内については、自動車関連が市場影響を多く受けております。その中でも、一般材などはエアコンフィン材などの販売が好調ということもあって量的な増加をいたしました。

海外は旺盛なグローバル缶材需要ということで、北米のTAA、タイのUATHとも増益となっております。22年度までの期間で活動した構造改革の効果につきましては、後ほど詳細に述べさせていただきますが、結果として、外部環境の変化に迅速に対応できる、そういった強靱な体質になってきたと考えています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



23 年は通期で業績を見通してみますと、国内の自動車生産台数が 23 年下期からは回復してくると見込んでいます。北米の自動車材生産混乱が解消をするということがあって、北米の UWH(ホワイトホール)の生産についても年間での黒字化が見込まれます。

エネルギー、添加金属の市場に連動した価格スキームをグローバルで計画通り達成し、23 年度については、その効果が年間を通して顕現するものと見ております。新たに電力費用の追加費用等が出てきますけれども、引き続き検討してまいります。

外部環境の変化と対応について

収益の安定化に向け、外部事業環境の変化に強い価格スキームを確立

	国内 	TAA(米国) 	UATH(タイ) 
アルミニウム地金価格の上昇	販売価格に転嫁		
エネルギー価格の高騰	販売価格への転嫁は 予定通り導入済み 電力費用の追加負担分については引き続き検討	販売価格への転嫁を実施 (市場価格連動の 価格スキームを 導入済)	契約更新(新規含む) 市場価格連動の 価格スキームを 導入済 既存契約期間中の見直し 一部のお客様と エネルギー価格高騰分 の転嫁を合意
添加金属価格の高騰	添加金属を多く含む製品について、市場価格に連動した価格スキームを 導入済		
物流費の上昇	—		販売価格への転嫁を実施 (フォーミュラ制を 導入済)

© UACJ Corporation. All rights reserved.

2

次の外部環境の変化の対応については、今ほど申し上げた価格スキームについての詳細でございます。大きく変化はございません。

それでは 22 年度の業績について 4 ページ目以降からご案内をいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2022年度 棚卸資産影響前経常利益 161億円(前年比 △ 52億円)

2022年度 経常利益 87億円(前年同期比 △ 436億円)

■ 数量 : 1,330千トン 前年比 +37千トン

- 缶材:UATH(タイ)、TAA(米国)が旺盛な需要を背景に増加
- 一般材:エアコンフィン材は世界的なエアコン需要の取り込み、印刷版材は国内回帰により増加
- 自動車関連(自動車材、箔)、IT関連材:半導体不足や世界的なサプライチェーンの混乱の影響を受け減少

■ 棚卸影響前経常利益 : 前年比 △ 52億円

◎増益要因(構造改革効果を含む)

- 国内事業のRM改善(気候変動対策)
- UATH業績好調
- TAA業績好調

△減益要因

- エネルギー価格の上昇
- UWH、国内の自動車関連が、自動車生産混乱の影響を受け減少

© UACJ Corporation. All rights reserved.

5

5 ページ目に 22 年度の業績サマリーを載せております。数量については、前年比 3 万 7,000 トンの増加でありました。缶材がタイ、北米で大変好調だということが背景にございました。一般材はエアコンフィン、世界的にエアコン需要が大きくなっておりますので、タイの UATH、あるいは国内のエアコン向けの生産が伸びた。あるいは国内回帰をするような商品が出てまいりまして、特に印刷版、これにおいては、需要が大きく伸びております。

あと自動車関連、これは自動車材のボディパネル材、あるいは箔の電池材、押出材、加工品というような関連がございますが、自動車関連材あるいは IT 関連、それから半導体関連、こういったところでのサプライチェーン混乱を受けて大きく減少している状況にございます。

棚卸の影響前の経常利益は前年比でマイナス 52 億、増益要因、減益要因は記載の通りであります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

1. 2022年度 業績

2022年度 業績

(単位:億円)

	2021年度 (A)		2022年度 (B)		増減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
連結売上高	7,829		9,629		1,800	
連結営業利益	595		172		△ 423	
棚卸資産影響前 連結経常利益	213		161		△ 52	
棚卸資産影響額	310		△ 74		△ 384	
連結経常利益	523		87		△ 436	
連結当期純利益 ^{*1}	321		47		△ 274	
Adjusted EBITDA ^{*2}	602		597		△ 5	

*1 連結当期純利益:親会社株主に帰属する当期純利益

© UACJ Corporation. All rights reserved. *2 Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸資産影響

6

業績の数字は6ページ目にまとめております。連結の売上高は、1,800億円、対前年で増加をしております。しかしながら、実力損益である棚卸資産影響前連結経常利益は161億と前年比を下回った結果になりました。あとは数字をお示ししている通りでございます。

1. 2022年度 業績

セグメント別 売上高・営業利益

(単位:億円)

	2021年度 (A)		2022年度 (B)		増減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	6,975	641	8,509	233	1,534	△ 408
加工品・関連事業	1,648	11	1,991	△ 2	343	△ 12
(調整額)	△ 793	△ 57	△ 871	△ 60	△ 78	△ 3
合計	7,829	595	9,629	172	1,800	△ 423

© UACJ Corporation. All rights reserved.

7

7ページ目にセグメント別の売上高、営業利益を載せております。アルミ圧延品は後ほど詳細を述べますが、ここでは加工品関連事業に少し触れておきます。空調関係の好調、あるいは自動車関連

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



7

の新規立ち上げ、こういったところが大きく出てきたのと、対ドル円安ということで為替影響が出て、売上高は増えておりますが、営業利益については、北米におけるインフレに伴う人件費の増加、あるいはエネルギーのコストアップ等々によって前年割れの状況となっております。

1. 2022年度 業績

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)			
品 種	2021年度 (A)	2022年度 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材*	816	869	53
箔 地	56	46	△ 10
I T 材	14	9	△ 5
自動車材	138	126	△ 12
厚 板	53	52	△ 1
その他一般材	216	228	12
合 計	1,293 国内市場向け 479 海外市場向け 815	1,330 国内市場向け 475 海外市場向け 855	37 国内市場向け △ 4 海外市場向け 40

© UACJ Corporation. All rights reserved. *内部取引|控除後の数量

8

8 ページ目のアルミ板の品種別の売上状況を示しております。ここでは先ほどから申し上げておりますように、缶材需要が世界的なアルミ缶材の需要増加ということもあって、増えてきています。しかしながら、箔地、IT 材、自動車材、これは大きく自動車関連材に包含されますが、こういったところでの減少が大きく出ております。しかしながら全体としては、3万7,000 トンの増加でございました。海外比率が少し上がってきているという状況でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



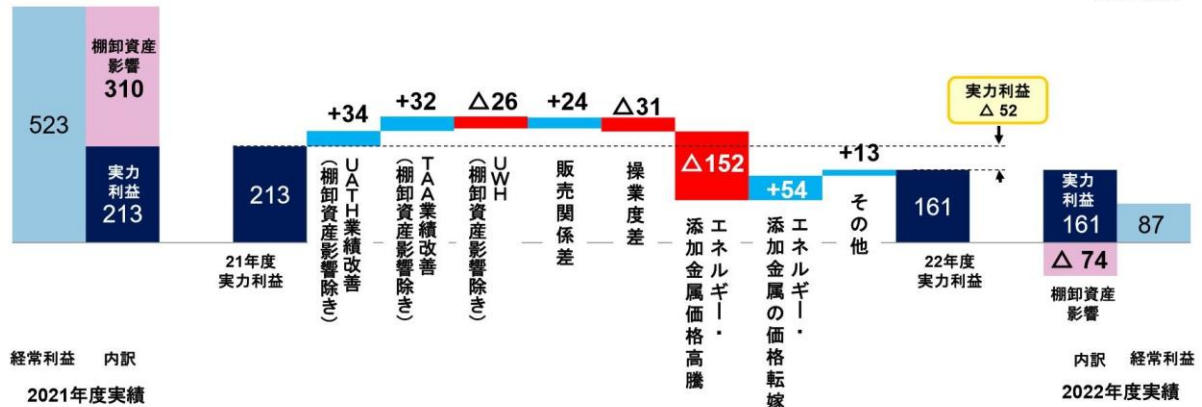
8

棚卸資産影響前連結経常利益分析 (2021年度 → 2022年度)

棚卸資産影響前連結経常利益: 213億円 (2021年度) → 161億円 (2022年度)

(棚卸資産影響額: 310億円 (2021年度) → Δ 74億円 (2022年度)、前年差 Δ 384億円)

(単位: 億円)



© UACJ Corporation. All rights reserved.

9

9 ページ目にウォーターフォールを示しております。21年と22年の変化です。ここでは主に実力損益の213億から22年度が161億になったというところの状況の説明をいたしております。棚卸影響は地金価格の下落によって384億円の悪化、増加要因はUATHタイの業績の改善、TAAの業績の改善、国内の販売関係における増加要因、これは自動車関連除いて増えているところがございます。エネルギー、添加金属の価格転嫁分がプラス54億円ございます。主に国内分でございます。その他が13億円。

転じて減益の要因ですが、特に自動車部品のUWH(ホワイトホール)でマイナス26億円、国内の操業度差でマイナスの31億、エネルギー価格、添加金属の高騰分で152億というマイナスが出ております。ここに示しておりますように、エネルギー、添加金属の価格高騰が152億ありましたが、上期からエネルギーサーチャージ等々の交渉をして、下期からプラスの54億円を実現したということがございます。

半期の分がおよそ取り戻せるということになります。これは先ほど申しましたように、23年度は初期から顕現するということになります。22年2月のロシア・ウクライナ問題の影響を受けて、大変急激な価格の変動がございました。これに対する影響を受けたというのは22年度でございます。たればでございますけども、その100億が大きく影響したということです。

サポート

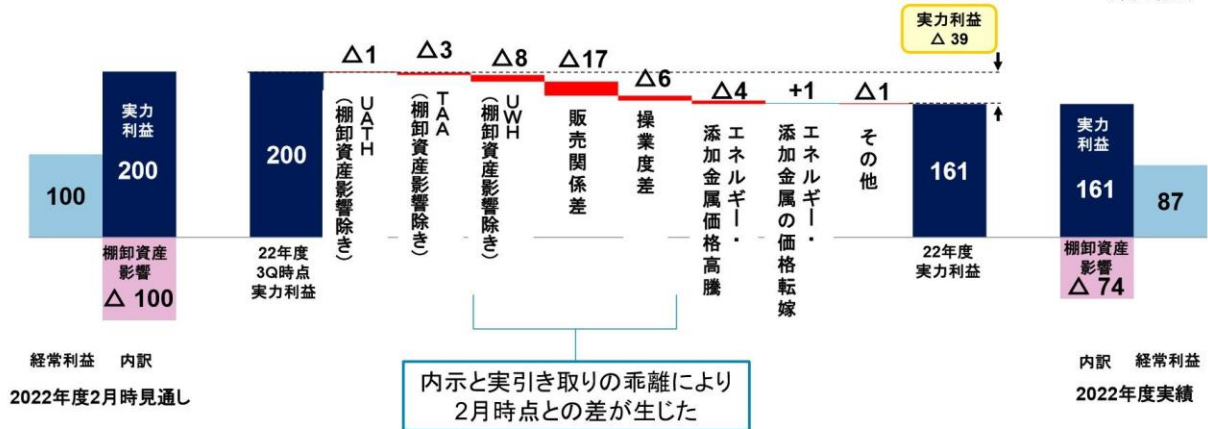
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

棚卸資産影響前連結経常利益分析 (2月見通しからの変化)

棚卸資産影響前連結経常利益: 200億円 (2月見通し) → 161億円 (2022年度実績)

(棚卸資産影響額: Δ 100億円(2月時点見通し) → Δ 74億円(実績)、前回差 +26億円)

(単位: 億円)



© UACJ Corporation. All rights reserved.

10

10 ページ目には2月からの見通しの変化を示しております。2月直近のところから大きく変化をいたしておりますが、当社は受注生産をいたしておりますので、お客様から内示の量を注文いただいて、生産を開始しますが、実際の引き取りとのかい離が2月時点と大きく出てきました。したがって、2月、3月と大きな乖離が生じた結果、200億の見通しに対して161億という結果になっております。

連結貸借対照表、資金運用表

財務基盤の源泉となる長期資金を創出

連結貸借対照表

(単位: 億円)	22/3末 (A)	23/3末 (B)	増減額 (B-A)
現金及び預金	143	223	80
受取手形及び売掛金	1,227	1,250	23
棚卸資産	2,324	2,235	Δ 88
その他流動資産	252	390	137
有形・無形固定資産	3,985	4,126	141
投資その他の資産	356	376	20
資産合計	8,287	8,601	314
支払手形及び買掛金	1,186	1,181	Δ 4
短期借入金	1,419	1,577	158
長期借入金	1,975	1,790	Δ 185
その他	1,231	1,360	129
株主資本合計	2,090	2,096	6
その他包括利益	190	385	195
非支配株主持分	196	212	16
負債及び純資産合計	8,287	8,601	314

© UACJ Corporation. All rights reserved.

資金運用表

	用途	調達
長期資金	設備投資他	269
	法人税等支払	80
	長期資金余剰	95
短期資金	短期資金余剰	162
	運転資金増減他	162

長期資金余剰 95億円
短期資金余剰 162億円
FCF 257億円

長期資金: 財務基盤の強化の源泉となる長期資金の創出
短期資金: 棚卸資産の削減により生じた効果

11

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

11 ページ目には連結貸借対照表、資金運用表でございます。特に有利子負債が短期借入金の増加から長期借入金の減少と相殺し、合計 28 億円減少させることができしております。2020 年 12 月から 2023 年 3 月にかけては、合わせて有利子負債は 350 億円の減少を見ることができました。

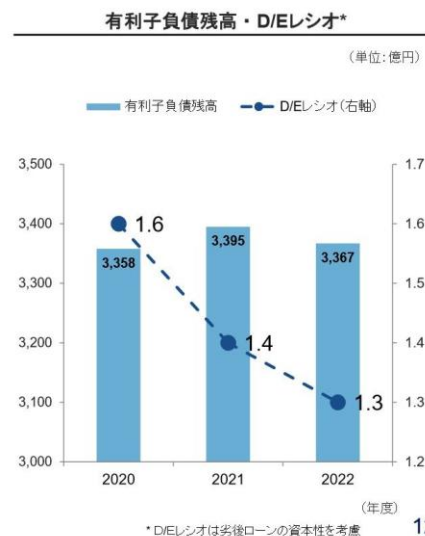
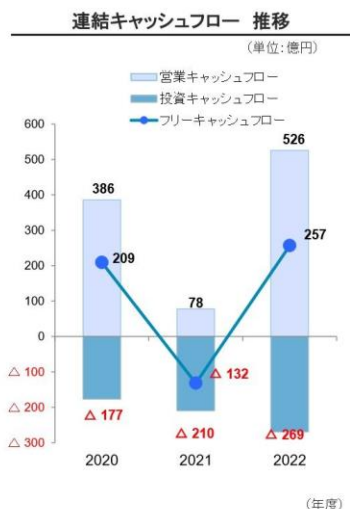
資金の運用表を見ていただきますと、結果としてフリーキャッシュフローは、257 億のプラスが出ております。

1. 2022年度 業績

連結キャッシュフロー計算書

有利子負債残高の減少、D/Eレシオが1.3に改善し、稼ぐ力が向上

2022年度 連結キャッシュフロー	
税引前利益	(単位: 億円) 72
減価償却費(のれん含む)	373
債権債務増減他	81
営業キャッシュフロー計	526
設備投資 他	△269
フリーキャッシュフロー	257
ファイナンススキーム・配当他	△ 39
現預金増減(△は増加)	△ 80
外貨建て借入金換算差(△は増加)	△ 110
有利子負債の減少	△ 28



© UACJ Corporation. All rights reserved.

その詳細を 12 ページ目に示しております。

連結キャッシュフローの推移、あるいは有利子負債残高、D/Eレシオのグラフを見ていただきますと、22年でキャッシュフローも回復、そして有利子負債が減、D/Eレシオも1.3倍まで改善が見られております。

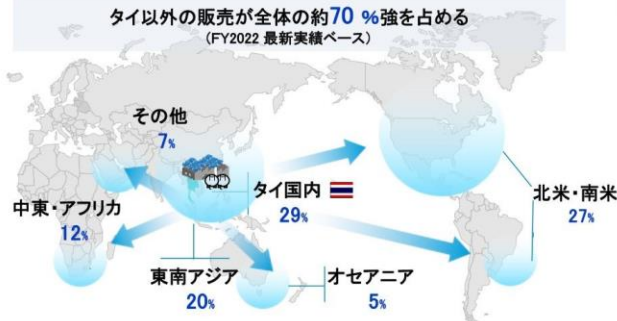
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

タイ(UATH)の状況 ~2022年度 総括

グローバルで旺盛な缶材需要、エアコンフィン材需要の取り込みにより増収増益

販売展開エリアの販売比率(世界25カ国)



収益変動要因と改善への打ち手

- 添加金属価格の高騰
- エネルギーコストの高騰
- グローバルで中長期的に成長継続
- 添加金属価格の高騰分の転嫁は完了
- エネルギー価格高騰分の転嫁は、新規契約時や、23年度下期から24年度の契約更新時に盛り込む。
- 新規の顧客の材料認定を完了し、中長期的に成長する需要に対応していく

© UACJ Corporation. All rights reserved.

総括

需要 : グローバル缶材需要は、過剰在庫消化の影響を受けるが、2023年度下期には解消の見通し
中長期的には引き続き成長を見込む

販売 : 缶材に加え、エアコンフィン材の販売好調

生産量 : 27千t/月(2022年1~12月)

販売量 : 27千t/月(2022年1~12月)

損益 : (単位:億円)

	21年度	22年度	前年度比
売上高	1,413	1,919	506
営業利益	93	50	△43
棚卸資産影響前 経常利益	△3	31	34
経常利益	50	11	△39

13

地域ごとの状況を13ページ目から説明しております。まずタイですけれども、タイについては、グローバルで大変旺盛な缶材需要に対応するため、左の画にありますように各地に提供することができております。現在では、サプライチェーンの混乱影響があって、低迷状況にありますけれども、中長期的に成長が見込まれるグローバル缶材、これに対して新しいお客様、新規の顧客に対しても材料認定を完了しておるという状況がありますので、23年度以降の成長が続くと見ております。

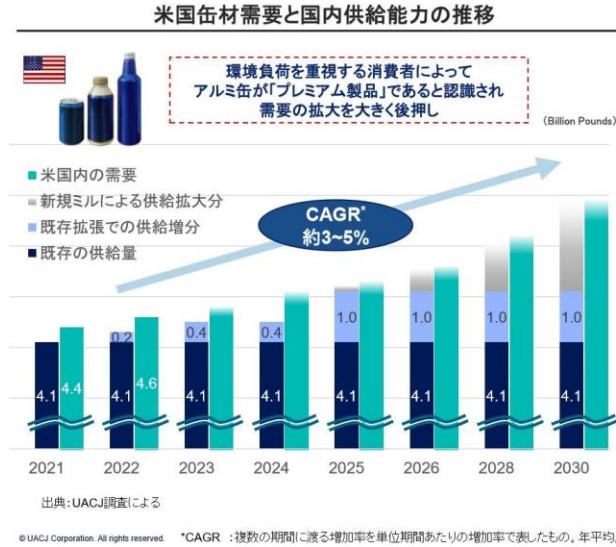
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

1. 2022年度 業績

米国(TAA)の状況 ~2022年度 総括

旺盛な米国缶材需要を捉え、実力利益が増加した



総括

缶材需要 : 足元では在庫調整の影響を受けているが、2023年度下期頃より解消の見通し。長期的には旺盛な需要環境が継続する

販売量 : 42千t/月 (2022年4~2023年3月) ※国内・UATH出荷分含む

生産能力 : 約450千t/年体制確立

増産対応 : 北米生産拠点の設備増強 (単位: 億円)

損益	21年度	22年度	前年度比
売上高	2,372	2,865	493
営業利益	320	76	△ 244
棚卸資産影響前 経常利益	99	131	32
経常利益	295	17	△ 278

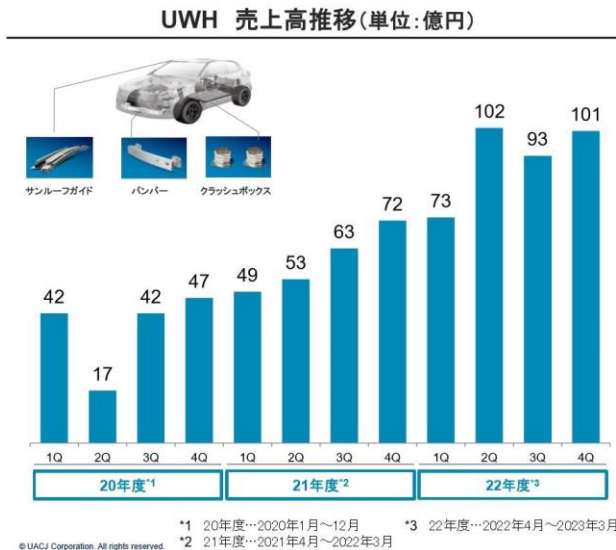
14

米国につきましては14ページ、TAAの状況でございますが、こちらでも足元では在庫調整の影響を受けておりますが、23年度以降これを解消して、長期的に旺盛な需要が見込まれてくるものと見ております。

1. 2022年度 業績

米国(UWH)の状況 ~2022年度期 総括

顧客の販売計画を元に新ライン導入も、自動車生産混乱影響で実需に期ズレが生じた



総括

市場環境 : 足元は半導体不足等で自動車生産に混乱が生じている。中長期では米国政府のバイ・アメリカン法により、米国製のEV需要は増加が見込まれる

販売 : 自動車生産混乱を受け実需の期ズレが生じ、顧客に対して販売変動分の保証を交渉中。売上高増加は、アルミ地金価格の高騰影響

生産体制 : 新ライン稼働開始も、販売影響で低稼働。需要回復に備え、自動化・コスト削減など実施

損益 (単位: 億円)

	21年度	22年度	前年度比
売上高	237	369	132
営業利益	△ 15	△ 28	△ 13
棚卸資産影響前 経常利益	△ 18	△ 44	△ 26
経常利益	△ 18	△ 42	△ 24

15

15ページ目が、北米UWH(ホワイトホール)の状況でございます。足元は半導体不足等々、自動車生産の混乱が続いておりますが、自動車生産の状況は大変強いものがございますので、23年度に

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



については伸びてくると見ております。足元、UWH(ホワイトホール)の活動としては、既存のお客様に対して、販売変動分の保証の要求交渉ですとか、あるいはコストの低減のために自動化、生産性改善、こういったところに地道に取り組んでいる状況でございます。

16 ページ目以降、構造改革についてのご説明をいたします。

2. 構造改革の総括

構造改革の重点課題と実施施策

構造改革の目的として、強い経営基盤を確立すること

重点課題	施策
稼ぐ力の向上	<ul style="list-style-type: none">● 損益分岐点引き下げ等による、環境変化に強い収益構造の確立● 実施済み大型投資の能力最大限活用による成長分野の需要捕捉と収益最大化
財務体質の改善	<ul style="list-style-type: none">● 投資の厳選● 棚卸資産の削減● キャッシュフロー、資本効率を重視した経営への取組
マネジメントの仕組みの強化	<ul style="list-style-type: none">● 取締役・役員体制見直し● 組織・権限・コーポレート機能改革● 理念・価値観の再確認と再構築

© UACJ Corporation. All rights reserved.

17

17 ページ目は、目的と方策を、構造改革を始めたときからのものを載せております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2. 構造改革の総括

構造改革の成果

構造改革で計画した施策は外部環境の変化に対応し、すべて完了

施策	2019年度		2020年度				2021年度				2022年度				
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
生産拠点集約	★深谷下工程 一部停止		日光閉鎖完了★ 押出小山/名古屋プレス集約★				★				深谷自動車材移管完了 (一般材の受注対応により設備稼働継続)				
	移管・品質確認・人員再配置調整														
	集約効果														
	集約効果のフル貢献														
大型投資 収益化	UATH	3期設備 品質確認・生産量拡大		販売 32万トン/年 体制											
	TAA	★新冷延 稼働 品質確認		販売 45万トン/年 体制											
不採算分野/ ノンコア分野撤退	売却・撤退候補分野の撤退検討														
	売却・撤退の実施														
	継続的な撤退の検討														
ガバナンス マネジメント	取締役・ 役員体制見直し	新体制検討		新体制準備		新体制での運営									
	組織・権限・ コーポレート 機能改革	マスタープラン・ ロードマップ策定		詳細設計				改革実行フェーズ							
	理念・価値観の 再確認と再構築	見直し案の策定		浸透活動											
基盤強化	添加金属価格高騰の転嫁														
	エネルギー価格高騰の転嫁														

© UACJ Corporation. All rights reserved.

18

その結果が 18 ページ目のガントチャートで示しております。ほぼスケジュール通り進捗し、さらには基盤強化として、構造改革の成果として、外部環境の変化に迅速に対応できる体制、これが先ほどの 22 年の上期に生じたエネルギーや添加金属の急激な高騰に対して、迅速に価格の値決め構造を改革するぞということで、サーチャージ制を導入したりしました。こういった実行実現力が備わったことを示しております。

2. 構造改革の総括

損益分岐点の引き下げ

損益分岐点は今までの構造改革の取り組みにより、目標値まで低下



*1 UMP: UACJ Marketing & Processing
*2 タイ押出加工: UACJ Extrusion (Thailand)
*3 中国・押出子会社: 日鋳全綜(天津)精密業有限公司

© UACJ Corporation. All rights reserved.

主要施策の進捗

- 生産拠点の集約化による固定費削減・稼働率向上
 - ・日光製造所閉鎖→自動車熱交材のUMP¹への集約 → 完了
 - ・名古屋/福井へ集約 → 22年度未完了
 - ・押出小山/名古屋 プレス集約と最適化 → 完了
- 採算性の向上
 - ・注力・成長分野への対応 → 計画した施策は完了
 - ・低採算分野の是正・撤退 → 計画した施策は完了
 - ・気候変動対策に向けた価格は正（追加施策） → 完了
- 選択と集中
 - ・英国圧延事業 ブリッジノースから撤退 → 完了(2022年3月)
 - ・タイ押出加工² アユタヤ工場閉鎖 → 完了(2022年1月)
 - ・中国・押出子会社³ 出資持分一部譲渡手続き → 完了(2021年12月)
 - ・中国・金属加工子会社(無錫)閉鎖 → 完了(2022年12月)
- 最適生産体制の構築
 - ・自動車材の生産性向上 → 完了
 - ・福井新CALP(自動車材仕上げライン)活用による製造所間の品種/工程分担の見直し、最適化 → 完了
- 間接費用の削減
 - ・間接人員の削減等 → シェアードサービス開始
 - ・IT投資等による業務プロセスの改善 → 開始、進行中

19

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



19 ページ目には、損益分岐点を板の事業について述べております。コスト低減によって、稼ぐ力の向上の基礎が一層進んだということが見てとれます。

2. 構造改革の総括 収益改善効果

収益構造の改革・大型投資の収益化を実現し、210億円を達成

	構造改革発表時 (2019年9月)	構造改革効果*	コメント
国内：収益構造改革	+100億円	+112億円	
生産拠点集約	+40億円	+14億円	一部品種の受注増加対応で設備停止見直し
最適生産体制・品種構成改善(自動車材・電池材増加)	+50億円	+87億円	生産性向上、気候変動対応価格は正等
間接費削減(間接人員削減等)	+10億円	+11億円	予定通り
海外：大型投資収益化	+110億円	+98億円	
UATH 第3期投資稼働開始で、販売量拡大とコスト削減	+70億円	+69億円	予定通り
TAA 増産投資完了による販売量増加、価格改定実現	+20億円	+51億円	北米缶材需要増への対応で増加
UWH 収益性重視の受注、押出機を生かし売上拡大	+20億円	△22億円	北米自動車生産混乱の影響で減少
構造改革効果	+210億円	+210億円	




© UACJ Corporation. All rights reserved.

*構造改革効果は構造改革発表時点の諸元により算出

20

20 ページ目には数字的な効果として 210 億円の達成ができました。これにつきましては、項目別のプラスマイナスがございますが、全体感として 210 億は達成できたと見ております。

2. 構造改革の総括 構造改革結果のまとめ

重点課題	結果
稼ぐ力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ● 損益分岐点を構造改革開始時点から、10%引き下げ ● 構造改革効果: 210億円 	 <ul style="list-style-type: none"> ● 損益分岐点を10%引き下げた ● 構造改革効果として、210億円を創出 ● 追加施策として値決め構造の是正を実施
財務体質の改善 <ul style="list-style-type: none"> ● D/Eレシオを1.7⇒1.3まで引き下げ ● 有利子負債を800億円以上削減 	 <ul style="list-style-type: none"> ● D/Eレシオの引き下げ 2022年度: 1.3 ● 有利子負債削減額: 280億円 ※地金価格高騰により運転資金が増加
マネジメントの仕組みの強化 <ul style="list-style-type: none"> ● 取締役・役員体制見直し ● 組織・権限・コーポレート機能改革 ● 理念・価値観の再確認と再構築 	 <ul style="list-style-type: none"> ● 取締役、執行役員の人数削減 ● スキル・マトリックス導入による役員の多様性・専門性の見える化 ● 取締役会、監査役会の実効性評価の実施 ● 業績連動報酬制度の充実(TSR、非財務指標連動の導入)

© UACJ Corporation. All rights reserved.

21

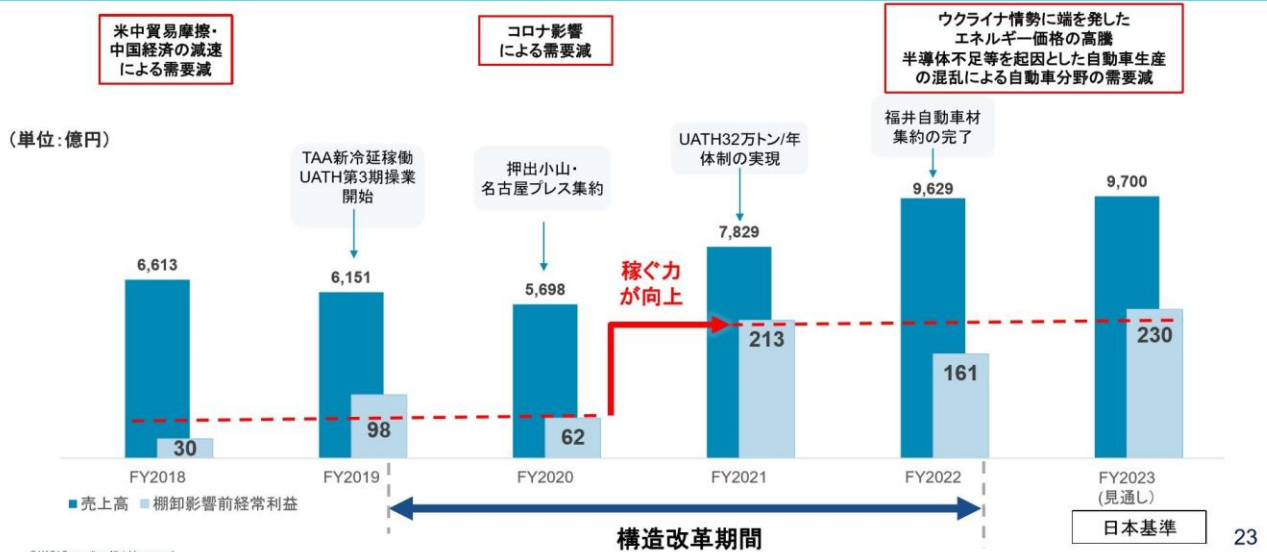
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

21 ページ目は、構造改革の結果のまとめです。詳しくは IR-Day でお示しいたしますので、ご参照ください。

3. 2023年度 通期見通し 経営環境認識

「稼ぐ力」が着実に向上したと同時に、「外部環境の変化に迅速に対応出来る企業体質」に変革



23年の通期の業績見通しについてご説明申し上げます。まずこのページは、棚卸資産影響前の連結の経常利益を23年度見てみますと、230億という額になります。この230億を受けて、今一度経営環境の認識をお示しいたします。このスライドには、私自身が社長に就任した2018年からの売上高および当社の実力利益である棚卸影響前の経常利益の推移を示しております。

2018年は米中貿易摩擦、あるいは中国経済の減速、こういった要因から、IT材、厚板等の主力板製品分野での大幅な需要減少になりました。それに伴って国内外の子会社関係、こういった設備の先行投資ベースということもあって、稼ぐ力は低水準となってしまいました。しかしながら、19年下期から取り組んだ構造改革をもって、22年で完了いたしました。構造改革を実行しながら自らが変革することにより、この後の3年間で稼ぐ力は赤の矢印のように大きく向上したと考えます。

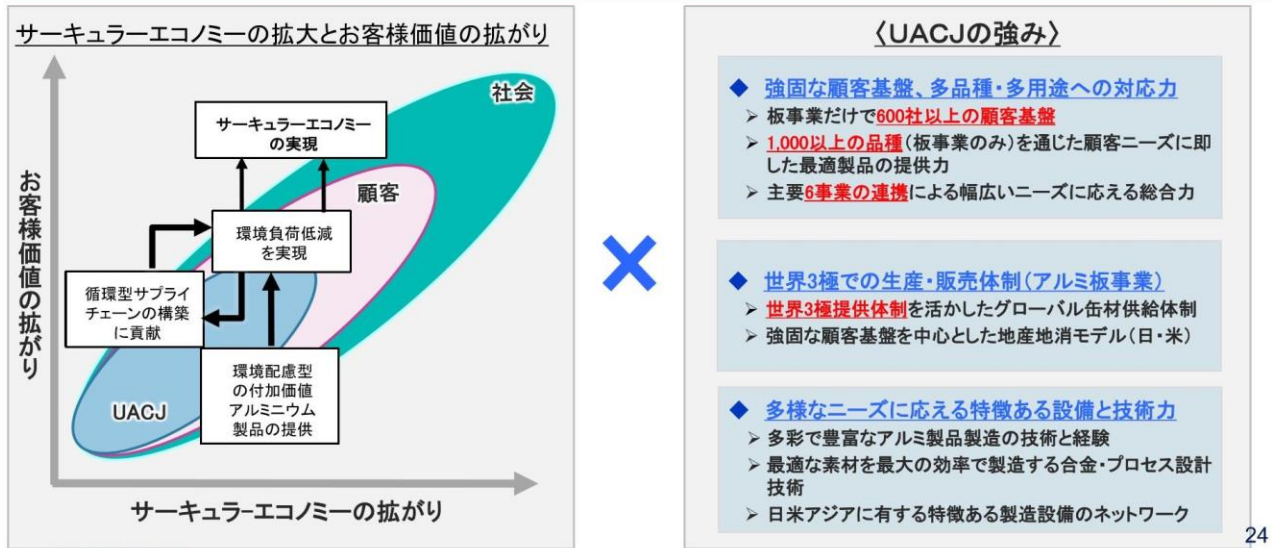
当社の長年の課題であった外部環境に迅速に対応できる企業体制の確立、こういったものについても手応えをしっかりと感じております。22年度からのエネルギーの価格の大幅高騰についても、先ほど言いましたように迅速に対応できたということが実力を示しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

サーキュラーエコノミーを付加価値サービスの提供を通じて推進

アルミニウム素材の付加価値化により、サーキュラーエコノミーの推進とお客様価値を拡大



24 ページ目には、23 年度における第 3 次中期計画の最終年ということもあって、この中計におけるコンセプトを今一度確認しています。構造改革を完遂し、その先の成長と、2030 年のビジョンの実現に向けた基盤を確立するということに対して考えてみますれば、左の絵にありますように、サーキュラーエコノミーの拡大とお客様価値の拡大、これと UACJ の強みを掛け合わせることで、当社の企業価値を増加させることができると考えています。

アルミ素材の活用の領域を拡大することと同時に、アルミ素材が循環型サプライチェーンを構築できる素材であるということを通じて、アルミニウムのサーキュラーエコノミーの構築を通じて、お客様、あるいは社会の課題解決に取り組んでおります。

当社はサーキュラーエコノミーの構築の機会をうまく捉えて、素材プラスアルファのビジネスモデルを拡大すると同時に、企業価値向上につなげていく所存であります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

市場環境認識

全体	
	<ul style="list-style-type: none"> ● アルミの需要は中長期的にはアルミの環境面環境特性(リサイクル性、軽量性)を受け、増加を見込む ● 2023年度については、上期は需要が厳しいが、下期には自動車関連を中心に需要の回復を見込む ⇒需要が厳しい中ではシェア維持・向上につとめ、さらなるコスト低減活動を推進 ● 2023年度はエネルギー、添加金属の市場価格に連動した値決めスキームが年間を通して効果顕現する ⇒電力費用の追加負担分に関して、今後も検討を継続する
缶材	国内: 底堅い需要の中、販売量の増加に向けた活動を実施 グローバル: 足元のインフレ基調の景況感や、サプライチェーン混乱で生じた過剰在庫消化の影響により、北米を中心に一時的に踊り場だが、中長期的には、旺盛な需要環境継続を見込む
自動車材	国内: 自動車生産は半導体等の部品不足が解消基調、2023年度下期より本格的な需要の回復を見込む UWH: 北米自動車メーカーのサプライチェーン混乱解消で、需要が安定化し2023年度中の黒字化を目指す
一般材	厚板: 短期的には調整局面も、半導体製造装置向けは中長期では需要は堅調 IT材: 足元は在庫調整の局面も、今後DXや5G関連用途への需要拡大を見込む エアコンフィン材: 欧州・東南アジアを中心としたグローバルでのエアコン用途拡大により、フィン材需要拡大 印刷版材: 国内回帰の需要取り込みにより販売増加 ⇒「強固な顧客基盤」や「多品種・多用途への対応力」を活かし、好調な分野で利益を確保していく

© UACJ Corporation. All rights reserved.

25

市場環境については、25 ページ目にお示ししますように、全体感は 22 年からの状況が 23 年上期まで続くと考えております。しかしながら、23 年の下期からは、自動車の関連のサプライチェーンの混乱と北米缶材の在庫影響はなくなり、回復すると見込んでおります。

その他に、一般材についても、厚板、エアコンフィン材、印刷板等も中長期では需要は堅調でありますし、直近のところでのエアコンフィン材の増加も確実なものもありますので、こういったところに当社の強みを発揮してまいりたいと考えます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

3. 2023年度 通期業績見通し

2023年度 通期業績見通し

(単位:億円)	日本基準		増減 (B)-(A)	(単位:億円)	IFRS
	2022年度実績 (A)	2023年度見通し (B)			2023年度 (見通し)
連結売上高	9,629	9,700	71	連結売上高	9,700
連結営業利益	172	325	153	連結営業利益	340
棚卸資産影響前 連結経常利益	161	230	69	棚卸資産影響前 連結営業利益	360
棚卸資産影響	△ 74	△ 20	54	棚卸資産影響	△ 20
連結経常利益	87	210	123	—	-
連結当期純利益	47	115	68	連結当期純利益	150
Adjusted EBITDA	596	738	142	Adjusted EBITDA	723
年間配当	85円/株	85円/株	—	年間配当	85円/株

© UACJ Corporation. All rights reserved.

26

改めて数字で見ると、26 ページ目になります。連結の売上高は9,700 億円となります。棚卸影響前の経常利益は230 億円、いずれも22 年度の実績から23 年度の見通しは増えます。ここで日本基準と書いてありますが、後ほどIFRS 国際基準については述べますので、ここでは日本基準でお話をさせていただきます。

3. 2023年度 通期業績見通し

セグメント別 売上高・営業利益見通し

(単位:億円)

	日本基準 2022年度実績 (A)		日本基準 2023年度見通し (B)		増減 (B)-(A)		IFRS 2023年度見通し	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ 圧延品	8,509	233	8,700	342	191	110	8,700	348
加工品・ 関連事業	1,991	△ 2	1,940	47	△ 51	49	1,940	55
(調整額)	△ 871	△ 60	△ 940	△ 64	△ 69	△ 4	△ 940	△ 64
合計	9,629	172	9,700	325	71	154	9,700	340

© UACJ Corporation. All rights reserved.

27

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



27 ページ目はセグメント別の売上高・営業利益を示しております。このように大きくアルミの圧延品の需要は伸びると見ております。これも先ほどの自動車関連の需要の回復が出てくるということを示しております。26 ページ目の通期の業績の数字に対しては、確度が高いと考えております。

28 ページ目をご参照ください。

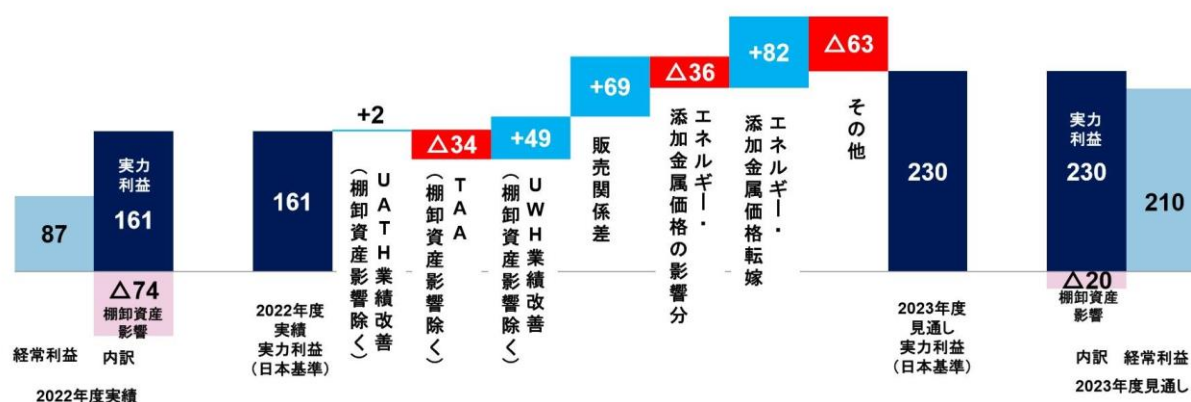
3. 2023年度 通期業績見通し

棚卸資産影響前経常利益分析 (2022年実績 → 2023年度見通し) (日本基準)

棚卸資産影響前経常利益: 161億円 (2022年実績) → 230億円 (2023年度見通し)

(棚卸資産影響額: △74億円 (2022年実績) → △20億円 (2023年度見通し))

(単位: 億円)



© UACJ Corporation. All rights reserved.

29

29 ページ目には、棚卸資産影響前の経常利益の22年と23年の比較を、日本基準でお示しをしております。この棚卸資産影響は54億円の増加であります。増益要因としては、UATHの改善、ホワイトホールの黒字化による改善、国内の販売関係の改善、そしてエネルギー添加金属の価格転嫁による改善が主なものであります。減益はTAAの業績のメタルベネフィット等々の減少に伴う減益。それからエネルギー価格の添加金属の高騰の影響、これは新たな電力の基本料金の値上げ等々も要請がされてきています。この中で、これは着実にロールマージン等に反映できるように対応する予定でございますが、実質のマイナス分はこの程度あるということでございます。

その他がマイナス要因としてございます。いずれも期ずれですとか、あるいは追加の必要経費等が出ていますが、それをしっかりと価格に転嫁し、あるいは改善につなげていくという取り組みながら、161億円に対して230億円の实力利益を見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

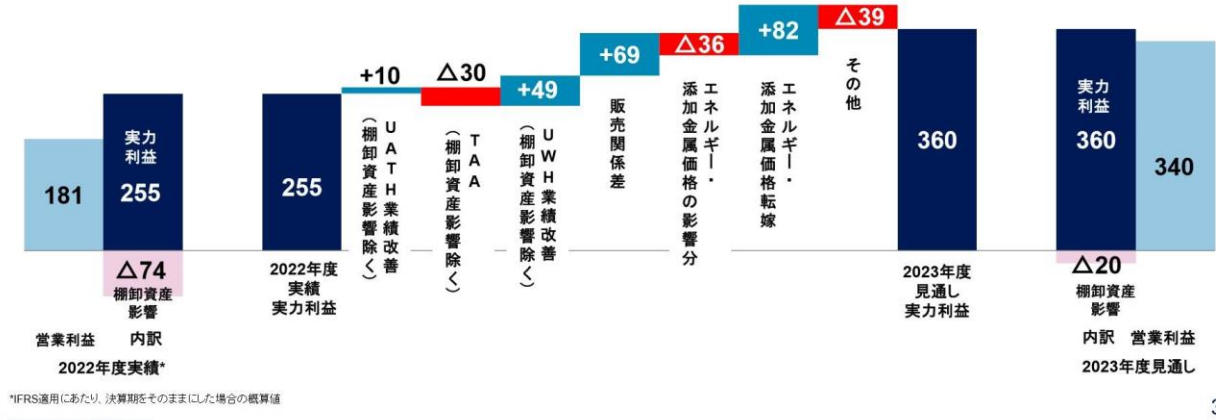
3. 2023年度 通期業績見通し

棚卸資産影響前営業利益分析 (2022年実績 → 2023年度見通し) (IFRS基準)

棚卸資産影響前営業利益: 255億円 (2022年実績) → 360億円 (2023年度見通し)

(棚卸資産影響額: △74億円(2022年実績) → △20億円(2023年度見通し))

(単位:億円)



30

30 ページは IFRS の移行の後についての比較でございますので、後ほど述べさせていただきます。

3. 2022年度 通期業績見通し

設備投資・減価償却費

設備投資額は減価償却費の計上額が上限
気候変動対策等へ一定額を配分し、計画的に進める

(単位:億円)		2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 見通し	2021年度-2023年度 合計値(推奨)
設備投資 (工事ベース)	一般投資	129	210	252	591
	戦略投資	79	54	140	273
	合計	207	264	392	864
減価償却費		340	373	392	1,105

© UACJ Corporation. All rights reserved.

31

設備投資・減価償却費については、図に示しておりますように、減価償却に対して3年間でおよそ80%の設備投資に絞って経営をいたしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



株主還元

1株当たり配当金は85円を据え置きます

- 還元方針 : 長期的な総還元性向は30%以上を目標とする
- 配当 : 3年間平均での連結配当性向20~30%を目途に、安定的かつ継続的な配当を目指す
(2023年度より中間配当を予定します)
- 株式価値の向上 : 確実な利益・キャッシュフローの確保、資本市場との対話で価値向上を目指す

1株当たり配当 / 1株当たり当期純利益(円)



© UACJ Corporation. All rights reserved.

32

32 ページ目に株主還元をお示ししております。配当は1株当たり年間配当金85円を据え置きます。また、2023年度より中間と期末の2回の配当を予定しております。株式価値向上のため、確実な利益、キャッシュフローの確保と併せて、引き続き、資本市場との対話を継続してまいります。

IFRSの適用について

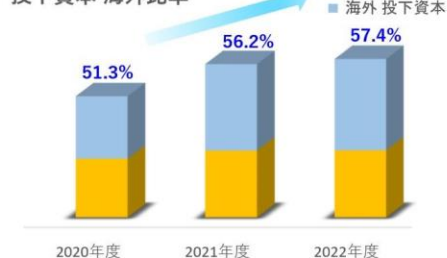
事業活動のグローバル化に対応し、会計基準にIFRS適用を決定

- 当社グループの売上高・投下資本等に占める海外比率は毎年増加しており、今後、更に増加していく見込み
- ➡ グローバルな企業活動の更なる拡大を念頭に、会計面・情報開示面の体制を整備
 - ➡ IFRSを適用することにより、より多くの投資家の方に当社の理解を深めていただきたい

売上高 海外比率



投下資本 海外比率



© UACJ Corporation. All rights reserved.

34

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

国際財務報告基準(IFRS)についてのお話を 33 ページ目からさせていただきます。当社のグループの事業がグローバル化するということに対して、会計基準を IFRS 適用に決定をいたしました。当社グループの売上高、投資資本等に占める海外比率は、グラフに示しますように毎年増加をいたしております。今後もさらに増加をしていく見込みでございます。

したがって、グローバルな企業活動の更なる拡大を念頭に会計面、あるいは情報開示面の体制を整備いたします。IFRS を適用することにより、より多くの投資家の方に当社の理解を深めていただきたいと考えます。

4. 国際財務報告基準 (IFRS) の任意適用

日本基準とIFRSの業績指標比較と変化分析

2023年度見通し比較

日本基準		IFRS	
売上高	9,700	売上高	9,700
営業利益	325	営業利益	340
経常利益	210		-
棚卸資産影響前 経常利益	230	棚卸資産影響前 営業利益	360
棚卸資産影響	△ 20	棚卸資産影響	△ 20
当期純利益	115	当期純利益	150

実力利益を示す指標

IFRS適用に伴う営業利益の変化



- ✓ IFRS適用に伴い業績管理の指標として**営業利益**を使用
- ✓ 営業利益がIFRS適用で以下の調整が生じる
 - ・ のれんの償却停止
 - ・ 持分法損益
 - ・ 特別損益
 - ・ 営業外損益(金融収益費用除く)
 - ・ その他

© UACJ Corporation. All rights reserved.

35

35 ページ目には、日本基準から IFRS に移行するにあたって、どういった変化が起こるかということと比較しております。ここでは棚卸資産影響前の営業利益について日本基準から IFRS になったときの数字の変化を示しております。ご参照ください。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

5. サステナビリティへの取り組み

企業理念とサステナビリティ基本方針

UACJグループ理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。



企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

サステナビリティ基本方針

「100年後の軽やかな社会のために」

© UACJ Corporation. All rights reserved.

37

36 ページ目以降、サステナビリティへの取り組みをお示しします。当社の企業理念とサステナビリティについての関係でございますが、100年後の軽やかな社会を実現するというを目的に、さまざまな活動を展開してまいります。

5. サステナビリティへの取り組み

“UACJ VISION 2030” で目指す社会課題の解決

アルミニウムを究めて、サステナブルな社会の実現に貢献する



© UACJ Corporation. All rights reserved.

38

38 ページ目には VISION 2030、2030 年に UACJ グループが世の中でどういう貢献を果たすのだということを描く中で、三つの領域、モビリティ、ライフスタイル・ヘルスケア、環境・エネルギー

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



の領域において、どういう活躍をするかということを考えながら、バックキャストで今を捉えております。

5. サステナビリティへの取り組み

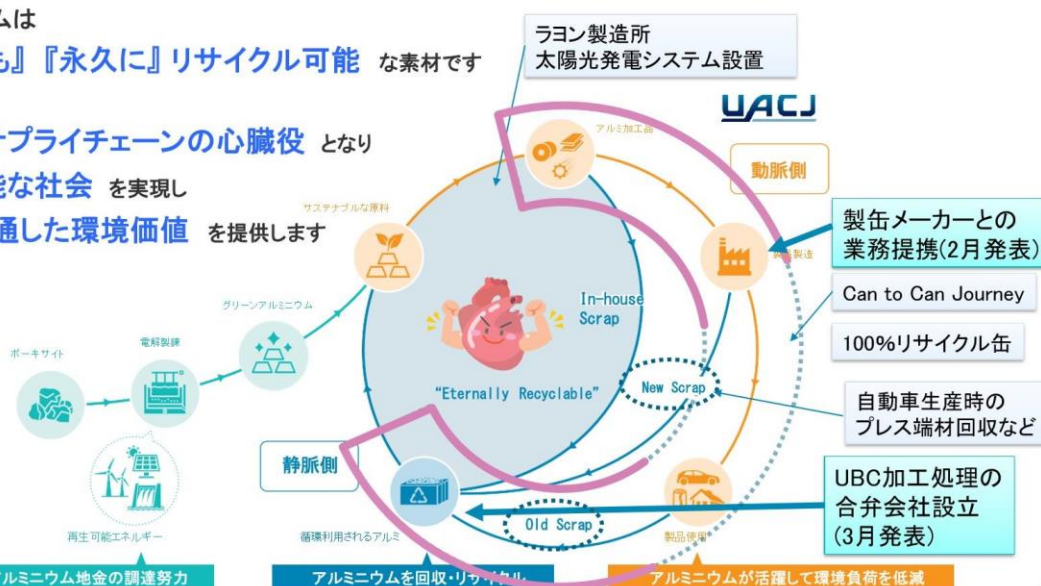
社会課題の解決 - アルミで創る循環の輪～サーキュラーエコノミーの心臓へ

●アルミニウムは

『何度でも』『永久に』リサイクル可能な素材です

●UACJは

- ・循環型サプライチェーンの心臓役 となり
- ・持続可能な社会 を実現し
- ・アルミを通じた環境価値 を提供します



© UACJ Corporation. All rights reserved.

39

その結果として、39 ページ目にございますように、社会課題の一つであるアルミが循環できるという特性を生かして、アルミニウムのサーキュラーエコノミーを構築する、UACJ グループはその中の心臓になるんだという意気込みの取り組みであります。図にお示ししますように、当社の領域がアルミ圧延からその下工程であるアルミ缶の製造のところを、赤い実線がラップし始めておりますけども、お客様と共同開発するということにより、この領域に入り込んでいくと。

あるいは UBC といって、アルミニウム缶の利用されたもの、再利用するために戻ってくるわけですが、使用済みの缶、UBC、これを集めて再加工するということに協業をして、いわゆる素材の上工程の部分、Scope3 の領域、上下を他社と協業しながら、当社の領域の中に取り込んでいくという活動を進めてまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

5. サステナビリティへの取り組み
2022年度トピックス

2022年5月	S	福井製造所が「ふくい健康づくり実践事業所」県経団連会長賞を受賞
5月	E	UACJグループの自動車分野向けアルミニウム板材ブランド「U-ALight」を立ち上げ
6月	E/S/G	ESG指数「SOMPOサステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に選定
7月	S	東京ヤクルトスワローズと社会貢献活動を実施
7月	E/S	アルミボトル缶入り備蓄水と供給ネットワークサービス「水の架け橋」の実証実験を開始
7月	S	宇都宮ブルックスとバスケットボール教室を開催
8月	E	世界初の100%リサイクル缶を、サントリー・東洋製罐グループホールディングスと共同で製造
9月	E/S	愛知県のスタートアップエコシステム連携事業に参画
10月	S	業界初、折りたたみ可能なパーソナルブース「origami+work」の販売を開始
11月	E/S/G	「ESG説明会」を初開催
12月	S	福井県坂井市にて野球教室を開催
12月	E	UATHが「アマタ最優秀廃棄物管理賞2022」において、最高位のプラチナレベルを受賞
12月	E	CDP2022「気候変動」「水セキュリティ」で「B」の評価を獲得
2023年2月	E	アルミ缶水平リサイクルの推進に向けて、東洋製罐グループホールディングス(株)様と業務提携契約を締結
2月	E/S	UACJ押出加工名古屋が愛知県安城市の「あんじょうSDGs共創パートナー」に登録
3月	E	山一金属(株)様とUBC*加工処理の合弁会社を設立し、溶解リサイクルシステムを構築
3月	S	「健康経営優良法人2023(大規模法人部門)」の認定を取得
3月	E/S	当社材を使用したアルミカップで「ナカメチャレンジコップ2023」に参画
3月	E	UACJグループ主要国内製造拠点過半数の17拠点が「再エネ電力100%工場」へ
—	S	人権デューデリジェンスを新たな拠点で実施(2022年度は押出加工安城などで実施)

© UACJ Corporation. All rights reserved.

*UBC 使用済み飲料缶、Used Beverage Can

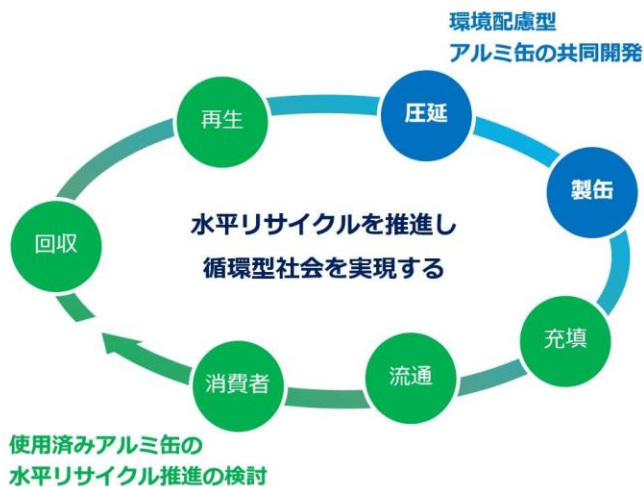
40

具体的な事例が40ページ目にございます。その中で三つほど具体的事例をお示しいたします。

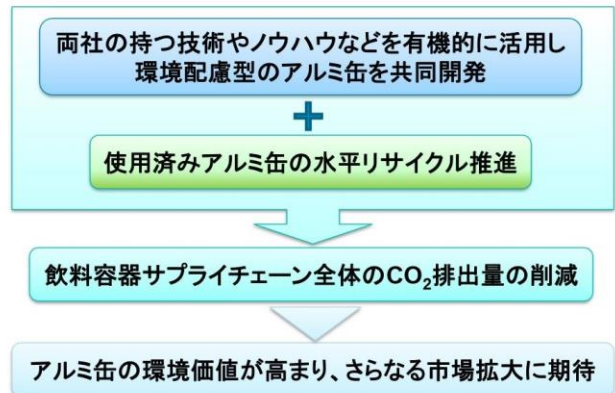
5. サステナビリティへの取り組み

アルミ缶の水平リサイクル※推進: 東洋製罐グループホールディングス(株)様との業務提携契約を締結

アルミ缶の環境価値を高め、さらなる市場拡大へ



© UACJ Corporation. All rights reserved.



※アルミ缶の水平リサイクル:
使用済みアルミ缶を再びアルミ缶材の原料として使用するリサイクル

41

41 ページ目にアルミ缶の水平リサイクル推進、これは当社の下工程である東洋製罐グループホールディングス(株)様との協業についてのお話であります。使用済みのアルミ缶の水平リサイクルを推進するために、素材、そして加工という両社の持つ技術、あるいはノウハウを有機的に活用する

サポート

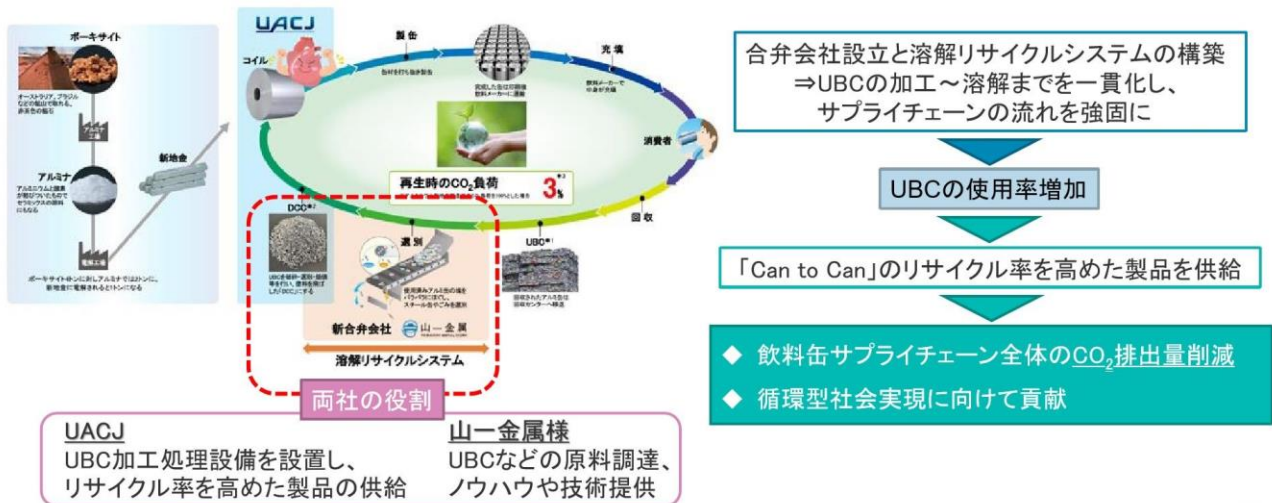
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ことによって、リサイクルしやすい缶を開発してまいります。この結果、アルミニウムの使われる領域がもっと広がっていく、量が増えていくと見込んでおります。

5. サステナビリティへの取り組み

アルミ缶の水平リサイクル推進：山一金属(株)様とUBC加工処理に関する合弁契約を締結

UBC※の「溶解リサイクルシステム」の構築により、循環型社会実現に向け貢献



© UACJ Corporation. All rights reserved.

※UBC: 使用済みアルミ缶 (Used Beverage Can)

42 ページ目は、素材の上工程である原料の領域になります。利用済みの缶、いわゆる UBC の溶解リサイクルシステムを山一金属(株)様と協業することにより、循環型社会の実現に貢献してまいります。国内で消費されるアルミ缶の 9 割以上は原料として回収されますが、残念ながら Can to Can ということで水平リサイクルの割合はまだ 7 割弱になります。

また、国内で使用されないものについては、海外に輸出をされています。この溶解リサイクルシステムの構築によって、UBC の使用量が増加して、そして Can to Can 比率を高める。アルミ缶がアルミ缶に生まれ変わる比率を高めるということが出来ます。また、UBC が国内の領域にとどまり、海外の輸出を軽減することができると、国内におけるリサイクルチェーンの構築に大きく貢献をしてまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

5. サステナビリティへの取り組み

国内製造拠点過半数の17拠点が「再エネ電力100%工場」へ

加工品の拠点を「再エネ100%工場」とし、顧客のCO₂削減の選択肢に

- ☀️ 再エネ電力100%工場の一覧(計17拠点)
- 株式会社UACJ押出加工名古屋(安城製作所)
 - 株式会社UACJ押出加工群馬
 - 株式会社UACJ押出加工滋賀
 - 株式会社UACJ鋳鍛(鋳鍛工場、鋳鍛第二工場)
 - 株式会社UACJ金属加工
(仙台工場、成田工場、恵那工場、滋賀工場、広島工場)
 - 株式会社ナルコ郡山
 - 株式会社UACJアルミセンター
(宇都宮カラーアルミ工場、滋賀工場、奈良工場)
 - 泉メタル株式会社
 - 鎌倉産業株式会社
 - 株式会社UACJ Marketing & Processing



- ☀️ 100%再生可能エネルギー由来の電力(以下「再エネ電力」)を年間約220GWh購入(2023年4月から実施)
- ☀️ UACJグループの国内主要17製造拠点をScope2のCO₂排出量がゼロとなる「再エネ電力100%工場」へ
- ☀️ CO₂排出量を年間約10万トン削減※を実現
⇒UACJグループのScope2・CO₂排出量の約20%に相当
※一般家庭に換算した場合、約54,000世帯の年間排出量に相当

最終製品に近い製品の製造拠点から実施することで、顧客のScope3・CO₂排出量削減にも貢献できる

43

43 ページ目には国内の製造拠点の過半数である 17 拠点を、再エネ電力 100%工場にするというものであります。これはいわゆる Scope2 の部分における領域ですが、最終製品に近い加工という工場拠点を CO₂ 排出の低い工場にすることによって、お客様が当社の製品を選びやすくしていただける。顧客の CO₂ 排出量が削減できるという貢献につながるということ、お客様が選んでいただきやすい工場になるということが実現されます。

当社が Scope2 で CO₂ 排出量を 17 拠点の分をゼロにすることによって、UACJ グループ全体では、Scope2 の約 20%が削減するという事に相当します。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

資本効率を経営指標とした対応及び株価を意識した経営の実現に向けて

資本効率経営の強化に加え、資本市場との対話を充実させ、企業価値向上に努める

第3次中期経営計画/長期経営ビジョン UACJ VISION 2030 財務指標: ROE、ROIC、D/Eレシオ
 → 当社は資本効率を経営管理の指標として取り入れかつ、資本市場との対話を積極的に実施

財務指標 KPI

	第3次中計期間					
	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023(予)
ROE	0.6%	1.1%	-1.8%	15.6%	2.0%	4.6%
ROIC ^{*1}	2.8%	1.9%	2.2%	11.1%	3.0%	5.5%
D/Eレシオ ^{*2}	1.7	1.6	1.6	1.4	1.3	1.2

資本効率管理に対する当社の取り組み

- ✓ 資本コストを基準とした目標(資本効率)を設定し、損益、投下資本の管理を実施
 例: キャッシュ・フローの管理・・・ CCC(キャッシュ・コンバージョンサイクル)の改善
- ✓ 資本市場との対話を引き続き積極的に実施し、資本市場のニーズを経営に反映して企業価値向上に繋げる



企業価値向上を実現させるため、更に取り組みを強化

*1 ROIC: 税引前営業利益を基に算出 *2 D/Eレシオ: 劣後ローンの資本性考慮後
 © UACJ Corporation. All rights reserved.

44

次に、最後となりますけれども、44 ページ目です。資本効率を経営指標とした対応、および株価を意識した経営の実現について述べます。資本効率経営の強化に加えて、資本市場との対話を充実させて企業価値の向上に努めるものであります。

当社は 2020 年より資本効率を経営管理の指標として取り入れるとともに、株主、投資家の皆様との対話を積極的に実施しております。第 3 次中期経営計画、長期ビジョン「UACJ VISION 2030」の財務指標の KPI は、この図にお示しをしておる通りでございます。ROE、ROIC、D/E レシオになります。

資本効率経営の直近の取り組みの一例としては、CCC(キャッシュ・コンバージョンサイクル)の改善を図るプロジェクトを始動させております。今後も資本コストを意識した資本効率経営を強化していくと同時に、UACJ の強みを生かしながら、アルミニウム素材の活用領域の拡大と相まって、アルミ素材の循環型サプライチェーン、すなわちアルミニウムにおけるサーキュラーエコノミーの構築を通じて、当社の企業価値を向上させるべく取り組んでまいります所存です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



今後の予定

IR-Day

2023年6月7日(木) 9:00~12:00

形式 オンライン開催

登壇者	代表取締役 社長執行役員	石原 美幸
	取締役 副社長執行役員	川島 輝夫
	取締役 常務執行役員	田中 信二
	常務執行役員/板事業本部長	橋本 圭造
	常務執行役員/TAA,CEO	Henry Gordiner
	執行役員/自動車部品事業部長	佐藤 文彦
	UATH社長	稲垣 公樹
	UWH,CEO	David Cooper

ESG説明会

2023年12月上旬予定

© UACJ Corporation. All rights reserved.

45

今後の予定を 45 ページ目にお示ししております。6月7日9時から12時において、当社の IR-Day を行います。これはオンライン形式になります。昨年に続いて、中期経営計画の進捗について、それぞれの主要部門の責任者から直接説明を申し上げます。北米 TAA、北米の UWH(ホワイトホール)の責任者も参加をします。事業の成長性についてご説明をいたします。2人とも東京から出席を予定しています。改めてご案内を申し上げますので、ぜひご参加いただきますよう、よろしくお願いを申し上げます。

私からのご説明は以上でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



質疑応答

上田 [M]：当社からのご説明は以上でございます。これより皆様からのご質問をお受けいたします。ご質問を希望される方はお知らせください。当社より指名をさせていただきます。お名前をご紹介しますので、ご質問をお願いいたします。

それでは、最初のご質問者をご紹介します。SMBC 日興証券株式会社、山口様、ご質問をお願いいたします。

山口 [Q]：いつもお世話になっております。山口です。よろしくお願いします。

IFRS に替わられていくということなのですが、お願いですけれども、日立製作所さんのように出てくる営業利益の中の特別損益項目等々を除いた、アジャストした部分の形で、総トータルな利益とセグメントの利益の開示を望みます。

それと御社の場合は、棚卸影響は大変大きいので、それも区分けした形で説明していただければ大変分かりやすいと思いますので、よろしくお願いいたします。これは要望でございます。1 点目です。

2 点目は、いつも同じ質問をして大変恐縮ですが、できましたら今回が GAAP ベースという形で、GAAP の数字出てますので、TAA、や UATH、UWH それぞれの利益の見通し、どういうふう to 今期見てるかというところを、できれば棚卸影響も含めたところでご説明いただきたいのが 1 点でございます。

中計最終年度ということで、あと数十億円ぐらい、2019 年度 9 月のところではターゲットにしてたんですけど。今の段階では少し未達かなというような感じで見られてるようですが、これはやはり、缶材を中心とした調整が足元で続いている、それと電力料金がさらに上がったとか、それと自動車の生産の回復が遅れているという要素でいいのか。そこを教えてください。

それと、みんながダウトで見てる場所。投資家がダウトっていうのは、やや疑いの眼差しで見てるのがやはりホワイトホールのところですけども、今回改善で見えていらっしゃるようですが、このあたりの勝算とかカタリストについてご解説ください。以上 3 問です。よろしくお願いします。

石原 [M]：最初の IFRS についての要望は川島さんから。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



川島 [A]：川島です。ご要望の通り、当社のほうでも考えておりましたので、内訳は従来通り、分かる形で開示させていただこうと思っております。

石原 [M]：2番目の個別の利益の見通しについて、飯田さんから。

飯田 [M]：IFRS ベース。

山口 [A]：できれば GAAP がいいですけど。

飯田 [A]：ではまず UATH から。売上高 1,875 億円、営業利益 55 億円、棚卸資産影響前経常利益が 33 億円、経常利益も同様に 33 億です。

山口 [Q]：ゼロということですか。

飯田 [A]：棚卸資産影響がゼロということですよ。

続きまして TAA、売上高が 2,867 億円、営業利益 163 億円、棚卸資産影響前の経常利益が 97 億円、こちらも棚卸資産影響はゼロとみておりますので、同じ数字になります。

それから最後 UWH、売上高は 435 億円、営業利益 22 億円、棚卸資産影響前の経常利益がプラス 6 億円、経常利益がプラス 7 億円、以上でございます。

山口 [M]：ありがとうございます。

石原 [A]：3つ目の中計最終年度ということもあって、10 億ほど足りないんじゃないかっていうお話がありました。ほぼ先ほどお話になった通りかと思っておりますけども、主にはやっぱり 22 年の下期の影響が 23 年上期も続くだろうと見ております。主なものは、自動車関連の影響が 23 年の上期も続くであろうということで、少し下目にその分は見ている結果だと思えます。

主に缶材については、ほぼ状況は戻ってくると見えておりますので、特に自動車関連の部分、あるいは厚板も当初見ていたよりも、元々 23 年度中にといいのは見込みがございましたが、24 年度ぐらいいまで厚板については需要が悪いというか、需要が少なくなると見られておりますので、山口様がおっしゃったような背景です。

あとはダウトで見ているということで、UWH(ホワイトホール)ですけども。UWH(ホワイトホール)は私たちも社内でもそういう議論をしているんですけども、先ほども申しましたように、当社は受注生産を基本としておりますので、お客様の内示に伴っていろんな生産を開始するわけですけども、UWH(ホワイトホール)に限って言えば、もう自動車材を中心にして、自動車の部品を中心としておりますので、今年のお客様の内示と、その引き取りの差が影響してくるわけです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



22年度下期は、お客様の内示数量と引き取り量にかなりの乖離がありました。しかしながら、22年度末ぐらいからお客様の内示量と、それから実引取量が、乖離が少なくなってきたり、お客様のこれからの生産見込みについても、23年の上期からは堅調になってくると見込まれます。

さらに実績が伴えないお客様に対しましては、少し投資をして、生産体制を整えてるわけですから、その分の保証と申しますか、価格への転嫁を下でいただける交渉もしておりまして、それも全く無理な状況ではないということもございまして、それなりに確度も高く交渉ができてるとということも見えてきました。UWH(ホワイトホール)については今までの分が大変悪すぎたと捉えておりますけども、計画的には堅実な数字にできてるかなと見ております。以上です。

山口 [M]：自動車メーカーの生産計画強かったですね。半導体とか足りてきているという話もあって。一方で、米国製缶メーカーの2社はそれぞれちょっと違った感じでしたね。1社はちょっと家飲みとか減ってて厳しいかもって感じと、もう1社はまもなく在庫調整が進むって説明会は言っていましたね。ではこれで引込みます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。

次のご質問は、UBS証券株式会社、五老様、よろしく願いいたします。ご質問をお願いいたします。

五老 [Q]：UBS証券の五老です。お世話になっております。よろしく願いします。

まず1点目、構造改革仕上げということで、成果について表にして、いつも通りご説明いただいたところなんですけれども。今後23年度以降のところ、これまで続けてこられた構造改革、いったんは目標、仕上げということだったと思うんですが、今後さらに企業価値を上げていくための取り組みとして、常にそういった取り組みというのは不断の努力といいますか、継続されていく方向なのかなという理解をしているんですけれども。

新年度のガイダンスの中での説明項目の中にはそういったものは入ってきておりませんが、長い視点で見たときに更なる改善余地など、どういうふうを考えて取り組まれるかというところを自助努力、あるいはコミットできる増益要因をどうつくっていくかという視点なんです、この辺りをお伝えいただけたらというのが1点目です。

2点目は、サーキュラーエコノミーへの取り組みということでご説明いただきました。4月に新しくUACJスマートのブランドの中で、マスバランスタイプというのを加えられたと認識していますけれども。先ほどカーボンニュートラルの再生エネ100%の工場の数も増やしていくというようなお話もありましたが、このあたりマスバランス法タイプのブランドを加えたことで、どういう形で

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



例えば数量的な、あるいは顧客アプローチが変わってくるのかと。よりローカーボン素材の供給のリーダーとして、どう拡販に取り組んでいく体制になっているのか。この辺りご説明いただけたらと思います。以上2点よろしく申し上げます。

石原 [M]：まず1点目の構造改革の成果が23年以降どのような形で継続され、そしてそれが企業価値にどうつながっていくのか。あとコミットできる評価機能みたいのものもあるのかというご質問でございました。

これは構造改革を推進して、次にサステナビリティ推進を担う立場にある田中からお答えします。

田中 [A]：田中でございます。今のご質問でございますが、構造改革自身、今回、22年度をもちましていったん3年半の活動を終わるということではありますが、今五老様からのご指摘の通り、引き続き新たな構造改革に取り組んでいくということになります。

これまでの延長線上というものも当然ありますが、もう一方で、新たに出てきているのは、先ほど次のご質問の中にもありましたが、非財務に関する関係です。こういったものも、この先の5年先、10年先を通じて大きなテーマになってくるだろうと思います。したがって、これまで通りの構造改革と併せて、そういった非財務的なところの取り組みを強化して、それをビジネスにつなげていく、このようなことを考えていこうとしています。

個々の具体的なアイテムについては、すでに議論を開始しておりますので、その中から新たにテーマアップをしていこうと考えております。

石原 [A]：付け加えますと、いわゆる構造改革の推進のための本部は解散しましたが、引き続いてそれが発展的になるためにサステナビリティ推進本部と衣替えしたわけですね。したがって、更なる必要価値をつけるために、組織の中で推進をしていくってということになります。具体的な数字は今後KPIとして出していくということになります。

二つ目のサーキュラーエコノミーの関係で、マスバランスを発表して、それがどういった特徴を持って、そして数量的にどんな増加が期待されるのかということでもございました。現在マスバランスについては、自動車関連のお客様とお話をさせていただいています。

したがって、こういった自動車の関連、いわゆるボディパネルの部分のお客様に対して、ローカーボンの素材を提供するということが可能になってまいりますので、従来からのアルミ化という軽量化だけのニーズから出てきたボディパネルの拡大に加えて、そういったローカーボンの素材を使う、いわゆるサーキュラーエコノミーの中でもカーボンニュートラルに関連する素材として認められてくると、他の素材への先祖返りみたいなものがなくなってくるんじゃないかなと期待されます

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



し、新しい車を作るならアルミというふうにしたい。ただし、具体的な数字はお示しできません。以上です。

五老 [M]：ありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。次のご質問は、モルガン・スタンレーMUFJ 証券株式会社、白川様、お願いいたします。ご質問をお願いいたします。

白川 [Q]：モルガン・スタンレー証券の白川です。本日はありがとうございました。

質問2点よろしくをお願いいたします。両方とも数字の質問になって大変恐縮ですけれども、まず1点目が28ページと29ページ、説明資料を見ているんですけども、この中で今年度のご予想のところで、販売数量ほぼ横ばいというご前提ですけれども、また厚板のような利益率の高いものは減ってしまうというところで。ただ一方で29ページを見ますと、販売関係差でプラスの69億円と、かなり大きく増益要因として見られていますので、ここら辺の入り繰りどうなっているかといったところを教えてください。これが1点目になります。

それから2点目ですけれども、資料でいくと31ページ、それから14ページ、ここら辺を見ての質問になるんですけども、31ページのところで、今回戦略投資、23年度は約90億円増えるというご計画になっています。14ページのところ、TAAのところを見ますと、北米生産拠点の設備増強と書かれていますので、こんなところに投資をするのかなってというのが何となく想像するんですけども、この投資こういった内容なのか。

もしアメリカだとすると、今後次の中計にも関わってくるかと思うんですけども、将来的に能力、販売量がどれだけ増える可能性があるかとか、そういったところ何かコメントいただければと思います。以上2点です。よろしくをお願いいたします。

石原 [M]：P28とP29の数量の差というご質問でございました。特に今フラットな22年と23年の差だけでも、29ページ目を見ると、販売関係差が出てくる、この内訳について、これは川島さん。

川島 [A]：川島からお答えいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



3. 2023年度 通期業績見通し

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品 種	2022年度 実績 (A)	2023年度 予想 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材*	869	880	11
箔 地	46	53	7
I T 材	9	11	2
自動車材	126	142	16
厚 板	52	47	△ 5
その他一般材	228	203	△ 25
合 計	1,330	1,336	6
	国内市場向け 475 海外市場向け 855	国内市場向け 510 海外市場向け 826	国内市場向け 35 海外市場向け △ 29

© UACJ Corporation. All rights reserved. *内部取引|控除後の数量

28

28 ページ見ていただくと、確かに総販売数量についてはほぼ横ばいなんですけども、中、見ていただくと、缶材、それから自動車材、これは戻ってきます。他方で、その他が減ってるんですね。このその他が2万5,000トン減ってるんですけども、これ実は何が減ってるかというと、アメリカのスラブの販売が大きく減るんです。実はスラブの販売が2万5,000トンの減以上に減ってます。

したがって、実際の製品としては増えてくるんです。だからトータル量は変わらないけれども、構成が良くなっていくということで、その販売差が出てくると。これ販売のところは全部国内なんですけども、国内が中心にこの自動車なんかも戻ってきますし。それから箔、IT、これ全部国内でございます。それから、その他一般材の国内については好調でございますから、そういった形になっているとご理解ください。

石原 [A]：あとはTAAの能力の拡充については、既に発表していると思いますけど、熱間の拡充をやる予定にしていまして、既に着工はしていますが、これも長期に渡りますので、費用そのものは各年で出てくるということでございますので、内容としては北米の熱間圧延能力の向上、既にこれは発表している部分でございます。

川島 [A]：川島です。戦略投資のところの大きなものはさっきの北米のところと、それから、既に山一金属(株)様と福井のほうで、先ほど説明させていただきましたけども、合併事業をやりますと。これから工事も始まります。この二つが大きな目玉として戦略投資に入ってくると考えており

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ます。複数年かかりますので、投資額が今期、それから次の中計にもかかってくると考えております。

白川 [M]：分かりました。どうもありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。次のご質問は、野村証券株式会社、松本様です。ご質問をお願いいたします。

松本 [Q]：野村証券の松本でございます。よろしく申し上げます。1点目はTAAについての今期の見通しにつきまして、減益でご覧になってるということですが、この背景を教えてください。あと数量については、いろいろな在庫調整的なお話もあるようですが、どんな感じでのこの1年をご覧になってるのかも教えてください。

2点目はUATHについても数量をどう見ている、何となく利益ももうちょっと増えるかなと思ってたんですけども、また横ばいぐらいなんで、この辺もどういうふうにご覧になってるのか教えてください。以上です。

石原 [M]：TAAの今期の利益の結果への背景ということですが、利益について少し話をしてください。

川島 [A]：川島です。先ほどの29ページで、この終わった期と新しい期の増減要因で、TAAが34億マイナスという形で見ているんですけども、数量について減るわけじゃなくて、減価償却費、こちらが増えてくる。それから円換算のところ、終わった期と今全体の為替が違うので、円換算で考えても少し減ってしまうという形で、マイナスで見ているというところでございます。

この34億の悪化のうち20億強が、減価償却が増えるということによる減だと考えております。

石原 [A]：あともう一つのTAAの数量についての見通しでございますけども、現状、サプライチェーン全体での過剰在庫ということが原因で、少し伸びが滞っているという話をしました。これは22年の下期から始まっておりますけども、23年の上期までは続くだろうと見ていまして、23年の下期には解消するという見通しで計画を立てておりますのがTAAの状況。

あとTAAについても、既に25年度の契約が始まっておりますので、それも堅調にできつつあるという状況がございますので、23年はこういう状況を解消すれば計画通りになっていくと見ております。

UATHについてですけども、UATHの生産量は、缶材について、先ほどの北米の影響を受けているという状況がございますが、同じように下期以降で解決をしていくでしょうし、一方で、グローバ

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ルでのエアコンの需要が大変堅調に増えてきています。ここに対応すべく、いろんな改善を行っていますので、総量としては、最大圧延量が機能するような状況になっていくものと思っています。

少し心配しますのは、自動車の熱交材です。ここが今後どうなっていくかというところがございます。ただし自動車の熱交という領域でいきますと、熱交材という領域は、ヨーロッパにおける熱交の領域の拡大というのは見込まれますので、そんなところでの需要が UATH にも影響してくると思っておりますので、先ほどの全体感で言うと、下期以降、確実に復調してくるという状況じゃなかろうかと思っています。少し上期は下目に見ているかもしれません。以上です。

松本 [M]：分かりました。ありがとうございます。以上です。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。そろそろ予定のお時間が迫ってまいりましたので、恐れ入りますが次の方を最後のお一人とさせていただきます。大和証券株式会社、尾崎様です。ご質問をお願いいたします。

尾崎 [Q]：大和証券の尾崎でございます。29 ページ目の資料ですけれども、その他のマイナスで 63 億ってというのはどういったものか教えてください。

2 点目が、UATH については、長期契約の切り替えで値上げの効果もあるのかなとは期待してたんですが、この値上げの効果の部分と、それがあつたとしても増益にならないっていうこの背景、もう一度ブレイクダウンで教えていただけないでしょうか。以上 2 点です。

石原 [M]：29 ページ目の件については川島さん。

川島 [A]：確かに 63 億ってその他が大きいんですけども、一つ、この半分以上が連結調整勘定です。連結決算をするときの内部取引の未実現な損益、これの増減でありまして、終わった期、2022 年度については、連結調整勘定の戻しがずいぶんありました。2023 年度については経済が少し量が増えるという形で、それがまた元に戻る形で、その分の差額が出てきたのが一つ大きいです。

それからもう一つが金利です。これ経常利益で示しておりますから、ご存知のように米国金利がずいぶん上がっております、その関係で金利差でもって、15 から 20 ぐらいこの分だけ去年と比べると金融費用が上がっているというところなんです。ちょっと増えますけど、さっき質問があつた TAA のところの悪化、その一部が金利が実はあります。経常利益で表してありますから。そこら辺が大きくて 63 のマイナスとなっております。

石原 [A]：二つ目の UATH についてのご質問でございますが、23 年度には新規のお客様とエネルギー関係で新しい交渉ができて、価格高騰分が転嫁できるんじゃないかと思込みを持ってらっしゃ

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ったってという話ですけども、この2ページ目にございますように、既存契約期間中についてはなかなか難しいので、新規の契約の時点だと、タイのお客様との契約は上がっているところがございます。

したがって、23年の下期から24年の上期にかけて、新しい契約がこれから増えてまいります。したがって23年度中はまだ残念ながら既存契約については全く、そのままというような状況のお客様が多いという状況になっています。

したがって、それ以降確実に、先ほどのTAAなんかも25年からのお客様との契約が始まるっていう話をしましたけど、24年からの契約について交渉が始まりますので、その時点ということになりますから、こういった計画を立てております。以上です。

尾崎 [M]：分かりました。ありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。予定の時間がまいりましたので、本日の説明会は終了させていただきます。恐れ入りますが、本日の説明会につきましてアンケートにご協力をお願い申し上げます。画面表示のQRコードもしくはチャット欄のURLよりご回答をいただけます。また、今後のお問い合わせにつきましては、IR部までお願いいたします。

以上をもちまして、株式会社UACJ、2022年度決算説明会を終了いたします。本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

